

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 国内の農業に貢献 米濱 和英 (リンガーハット会長兼 CEO)

- 2008 年 9 月、私はリンガーハットの社長に復帰しました。もう一回、会社を立て直そうと決断したので。業績低迷を食い止めるため、復帰後すぐに 50 店舗を閉鎖し、割引クーポンの廃止を決めました。いい店を生かすためにも、なるべく早く軌道修正する必要があったのです。ただ、集客をクーポンに依存していたため、既存店の売上高が 15~20%減り続けました。
- これだけでは縮小均衡に陥ってしまいます。新たに生まれ変わらなければ、後がないという危機感がありました。その突破口が、国産野菜への切り替えでした。年間 10 億円のコスト増になり、値上げするしかありません。社外から「成功するはずがない」と言われ、銀行も「世の中と逆行している」と融資に慎重になったほどです。もちろん、経営者はワンマンで決断するだけでなく、現場に出て、自分の目で事実を確かめることもしなければなりません。
- 経営者にはそれぞれいろいろなやり方があるでしょう。私の場合、報告される数字だけで、判断するのではなく、一人で店に行き、お客さんの顔をジューッと見ながら、いろいろなことを考えるようにしています。最近の食の安心・安全への関心の高まりにより、他の外食チェーンでも国産食材を使う動きが広がっています。結果的に国内の農業に貢献できたと考えています。

(参考:「日経ビジネス」2015 年 3 月 30 日号)

## 経営者のための危機管理

### 再び経営危機を迎えたシャープ

火中の栗を拾う形で経営のバトンを受け継いだシャープの高橋興三社長。2013 年の就任から 1 年 8 カ月を語る。

- 社員に取り戻してほしいのは自信。上からの指示を待たない風土に変えていかなければ駄目だ。
- シャープには経営理念があるが、形骸化している。大阪弁でいう「けったいな文化」がいっぱい出ている。会社の風土を変えていかなければならない。
- 社長になったとき「液晶の一本足打法だから経営危機になった」と言われたが、私もそうだと思う。この事業が伸び続けることはない。次に絶対に沈む。そういう意味で、何本かの足が必要だ、短期的には集中選択でもよいが、それでは絶対にもたない。
- 事業は新陳代謝していく。事業の名前が一緒でも、中身が変わることもある。派生して違うものが出てくることもある。消えていく事業ももちろんある。

(参考:「週刊東洋経済」:2015 年 3 月 28 日号)

## 街の活性化策

### 自立の精神 (串良町)

- 鹿児島県鹿屋市串良町に、恐らく日本一有名な、「地域おこしの達人」がいる。豊重哲郎さん、74 歳。「やねだん」(人口 300 人)の呼称で知られる柳谷集落で、行政に頼らない村おこしを約 20 年にわたって続けてきた。「やねだん」のある大隅半島の中中部は、山あい田圃が広がる自然豊かな土地柄だが、観光地があるわけでもないし、農業、畜産以外にこれといった産業もない。もちろん少子高齢化の例外ではない。
- 人口 300 人ほどの、この「やねだん」に、全国から年間 5000 人以上の視察者がやって来るのだ。豊重さんが訴えている事は「住民自治を意識づけする事の大切さ」である。「補助金におんぶにだっこでは人も地域も育たない」というのが地域おこしの基本である。集落の空き家を「迎賓館」として再活用する。「やねだん」の 20 年は、決して派手な取り組みではない。その原点は「故郷は自分たちで守る」という自立の精神だ。

(参考:「Wed ge」2015 年 6 月号)

## 古典に学ぶ

### 王さまと奴隷 (その 2)

(解説) 昼間はうんうんうなって働き、夜は疲れ切ってぐっすりねこんでしまう。だが、ねむれば心はのびのびとする。老僕は夜ごとの夢に王さまとなった。民草をしたがえ、国政を統べ、りっぱな宮殿、豪華な宴会、すべてが思いのままである。この上ない楽しさであった。そして目がさめれば、またもとの老僕にかえるのだった。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)